研究事業　エコチル調査コアセンター

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○リクルート期からフォローアップ期に移行し、本格的な調査が定常的に実施される状態に至っている。エコチル調査を安定的に推進するための運営を担う責任主体として、エコチル調査コアセンターの活動/活躍に期待したい。 ○うまく推進されなかった他の事例を踏まえながら、日本のメリット（遺伝的変異の幅がおそらく相対的に小さい、参加率が高いなど）を活かした展開を期待する。 ○化学物質環境汚染の環境影響へ重要な情報をもたらすと期待する。 ○曝露・影響（・および交絡因子）とも項目が多岐に渡っている。優先順位付けの方法が重要と考えるが、どのようなポリシーで進められるのか？
今後への期待など
○より一層本格化する事業であり、円滑な推進と成果の蓄積を図り、社会的要請に応えるとともに、次段階を見据えた展開を期待する。 ○先行する諸外国との国際連携は強化することが効率的であると思われる。 ○各種の環境要因への曝露が低いレベルであると考えられるので、遺伝的要因・腸内細菌叢を含めた撹乱要因の解析が重要になる。常に追加的な試料分析の余地を残して進められることが望まれる。 ○複合曝露の影響をどのように扱うのか、統計的なあるいはそれに代わるアプローチについての検討が必要と思われる。

主要意見に対する国環研の考え方
①組織体制を充実させて、確実な調査の継続実施を進めたいと思います。 ②国際連携の中で諸外国の事例を踏まえて、日本における調査展開を最適化していきたいと思います。 ③環境汚染物質の影響に関する質の高い成果の発信に努めます。 ④優先順位付けについては、学術的な意義や環境政策への寄与など多面的な観点から総合的な検討を進めており、その基本方針を策定中です。 ⑤調査の円滑な推進と成果の蓄積の両者をバランス良く進め、科学技術の新たな進展を取り組んで行くことが重要であると考えています。 ⑥国際連携については、関係国との情報交換・共有のための組織をすでに構築しており、その取り組みを強化していきます。 ⑦環境要因以外の撹乱要因の解析は研究計画策定時から重要な要素と位置づけていますが、具体的な分析計画立案の際には、新たな研究の展開の可能性を見据えた判断を行いたいと思います。 ⑧時間的な要素を含む複合曝露の影響を解析する手法の検討はそれ自体非常に難しい課題であり、様々な分野の研究者と連携した取り組みを進めたいと思います。